おかもと小児科クリニック

こどもの四季

第6号
2020年
3月1日発行

編集: 副院長　岡本友樹

そろそろ暖かくなってくるでしょうか？

暖冬とはいえ寒い日が続きましたね。卒園・卒業シーズンとなり、もうすぐ桜も咲くでしょうか。TVでは新型コロナウイルスの話題がつきません。少しでも早く流行が収束することを祈ります。

今回の「こどもの四季」は**大人の風疹ワクチン、今年の花粉症**、と院長コラムです。

お母さんだけでなく、お父さんも風疹ワクチンを！！

先天性風疹症候群という病気をご存知ですか？

風疹という発熱、発疹、リンパ節腫脹などの症状がみられる病気があります。麻疹（はしか）と似ていますが麻疹より症状が軽く済むことが多く、以前は「三日はしか」と呼ばれていました。風疹そのものは特別な治療は必要なく、多くの人が重症にならず回復する病気です。しかし、風疹に対する免疫を持たない妊娠初期の女性が風疹に感染するとお腹の赤ちゃんも風疹に感染します。お腹の中で風疹にかかってしまった赤ちゃんは、耳が聴こえ難かったり、眼や心臓の病気になったり、発達が遅れたりと様々な症状がみられます。これらの症状がみられる赤ちゃんを「先天性風疹症候群」と言います。

風疹は2013年に年間14,344人と大流行し、以降は2014年319人、2015年163人、2016年126人、2017年91人と少なくなっていました。しかし、2018年に2,946人、2019年は2,306人と近年感染が広がっています。先天性風疹症候群の赤ちゃんは2014年から2018年まではゼロでしたが、風疹の流行に伴い2019年から現在までに全国で5人が報告されています。

風疹の患者さんの多くは大人で、男性が女性より2.4倍多いとされています。子どもたちは1歳と小学校入学前にMRワクチン(麻疹・風疹)を接種しています。妊娠された女性は風疹の免疫の有無を血液検査で確認し、免疫がなければ出産後に予防接種を受けるよう提案されます。結果として、免疫がなく予防接種を受けていない大人の男性に風疹患者が多くなります。

風疹に感染している男性が、気づかずに職場や通勤電車などで感染を拡げて、免疫のない妊婦さんに感染してしまう場合があります。妊娠を希望される女性が予防接種を受けることはもちろん大切ですが、お父さんたちが抗体の有無を確認し予防接種を受けることも風疹の流行を防ぐためにとても重要です。

福岡市では成人男性を対象に無料で免疫の有無を確認し、免疫がない場合には予防接種の費用負担を減らす制度があります。先天性風疹症候群は大人が予防接種を打つことで防ぐことができる病気です。当クリニックでも検査および予防接種が可能です。詳しくは医師・スタッフへご相談ください。

（副院長）

今年の花粉症は・・・

少しずつ暖かく過ごしやすくなる「春」。桜が咲き、卒業式・入学式があり、明るくステキな季節ですが、この季節が1番辛いという病気があります。皆さん、ご存知の「花粉症」です。九州では毎年2月中旬からスギの花粉、3月中旬からヒノキの花粉が飛散し始め5月の上旬まで続きます。

今年の花粉飛散の予測では、全国的には昨年より少なく、例年(過去10年)と比較しても少ないと予想されています。しかし、福岡は例年並みと予想されていますので油断はできません。

花粉症の症状は鼻水・鼻詰まり、目の痒み、くしゃみがあります。抗アレルギー薬の内服や点鼻薬、点眼薬などで治療しますが、最も重要なのは花粉への暴露を避けることです。具体的には花粉の多い日には不要な外出は控え、マスクやメガネで防備し、帰宅時に室内に花粉を持ち込まないよう工夫することです。この辺りはTVなどで様々な方法が紹介されていますね。自分の生活にあった無理のない花粉対策を行いながら、必要に応じてご相談していただきお薬で治療をしていきましょう。

なお、舌下免疫療法は花粉の飛散時期の開始はお勧めできませんが、次のシーズンに向けて希望される場合は診察時にご相談ください。

（副院長）

院長コラム

暖冬なのにお寒い話

今年は、各地で冬を感じさせない暖冬が報じられました。福岡市の初雪は2月17日で、例年より64日も遅かったそうです。地球温暖化、マジ心配です。

今年のインフルエンザの流行も例年にないものでした。昨年8月に沖縄県で大流行し警報が出された後、「本土」でも9月から流行が始まり12月から1月に急増しました。ところが2月に入ると急減しています。（一方、米国ではインフルエンザが大流行し、3000万人以上が罹患し、1万4千人以上が死亡したと報じられています。）

このようにインフルエンザが早い時期に収束した背景に、中国武漢に始まった新型コロナウイルスの流行があるのではないかといわれています。死亡率の高い新型コロナウイルス（以下Covid19）が身近な存在になり、みんなが確実な手洗い、マスク着用、人混みを避けるなどを徹底した結果、インフルエンザの流行の頓挫につながったのではないかといわれています。そうです。インフルエンザの予防とCovid19の予防は、根本的には同じだということです。中国では国を挙げてCovid19流行の封じ込めに取り組んでいます。日本では大型クルーズ船内での流行を中心に2月18日現在、感染者数615名、亡くなられた方1名、肺炎などで重症の方10名余となっています。難しいことですが、むやみに怖がらず正しく予防し、早期の収束を望みたいものです。

さて、日本ではもっとお寒いことが国会で起こっています。政治を私物化した首相の「桜を見る会」関係のウソが次から次に暴かれています。「苛政は虎よりも猛し」という諺(ことわざ)がありますが、独裁的で戦争まっしぐらな政治は、どんな怖い感染症にも劣らず恐ろしいものです。子どもたちの未来のために、早いCovid19流行の収束と、平和を破壊する悪政に退陣を願いたいものです。（院長）

マンガでわかる風疹の話

ドラマ化された鈴ノ木ユウさんの漫画「コウノドリ」をご存知ですか？医療漫画は手塚治虫の「ブラックジャック」を筆頭に数多くありますが、最近では医療の問題などを扱ったリアリティの高い作品もたくさんあります。

「コウノドリ」はジャズピアニストでもある産科のお医者さんが主人公の産科医療を舞台にした作品です。

この作品の中で「風疹」のエピソードがあるのですが、風疹予防の一助になればという出版社の意向により、なんと無料で読めます！

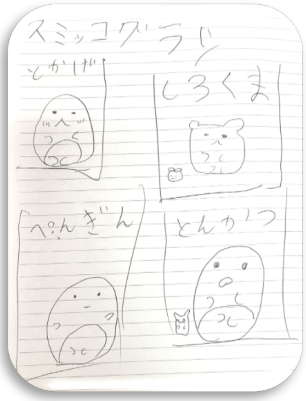
そのエピソードの中の主人公のセリフが印象的です。

「この先天性風疹症候群は怖いことというよりはむしろ…とても悔しいことです。阻止できたはずの障害ですから」

無料漫画は左の QRコードよりご覧ください。

クリニックの本棚にもあります。風疹のエピソードは4巻です。ぜひお父さんたちも読んでくださいね。（副院長）

待合室の「じゅうちょう」から



Rose Memory

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
花ある君と思いけり

これは島崎藤村の「初恋」という詩の最初の一節です。５０年近く前の、受験生、高３の冬のある朝、教室の壁高くにはりだされていました。

私はその言葉の美しさに茫然としたのを覚えています。携帯もないその頃、続きを知りたければ図書館へ行くほかありません。

懐かしい、懐かしい受験期の思い出です。

お知らせ♪

ホームページをリニューアルしました。
https://www.okamotokids-c.com/

【ローズホールイベント】

子育てカフェ

日時：3月10日(火) 13時～14時半
参加費：無料
内容：発達障害について

タティングレース教室

日時：月末の土曜日　13時～15時
（受付にご確認ください）
参加費：1,000円/人（材料費別）

おかもと小児科クリニック
〒813-0025
福岡市東区青葉2丁目8番34号
TEL:　092-691-0012
FAX:　092-691-0013
HP:　https://www.okamotokids-c.com/